

家庭教育啓発チーム「きらら」140の活動について

1 第1期開講式

日時 平成25年8月4日(日) 10:00~16:10
場所 奈良県立大学(奈良市船橋町10番地)
内容 (1)オープニングセレモニー開講式



プレゼンテーション「My innovation 2013!」

記念講演「子どものころを理解する」天理大学 千原雅代教授

(2)きららアクティビティⅠ(コミュニケーション能力の向上等)

(3)きららアクティビティⅡ(箸の持ち方、Tシャツのたたみ方等)

参加者感想等

- ・普段接することのない他校生と交流し、仲良くなれたことがうれしい。
- ・最初は不安だったけれど、いろいろなことが学べてよかった。
- ・みんなとコミュニケーションがとれ、とても楽しく有意義な時間だった。

○奈良高校の鈴木ひかりさんの、「誓いのことば」で会場が引き締まりました。

○大学教授の記念講演から、初めて出会ったなかまとのアクティビティまで、変化に富んだ密度の濃い一日でした。

○これまでに、テレビ・新聞の各2社に「きらら」が取り上げられました。



オープニングセレモニー



誓いのことばを受けて



アクティビティⅡ

2 第2回ミーティング



日時 平成25年8月19日(月) 13:00~16:00
場所 奈良県立橿原考古学研究所(橿原市畝傍町1番地)

内容 (1)アクティビティⅢ(他者理解、電話の対応マナー等)
(2)「ふれあいフェスタ2013」の企画・立案
(グループに分かれ、「ふれあいフェスタ」の実施案を作成)

参加者感想等

- ・すべてを自分たちで企画し、発表するという体験はすごく新鮮で、人前で話すことが楽しくなってきた。
- ・企画案を作ることは難しかったが、楽しめた。責任をもって実行したい。
- ・前回参加できなかったことが悔やまれるほど、楽しくすばらしかった。
- ・みんなに楽しんでもらえるふれあいフェスタにするため、頑張りたい

○高校生が、司会、プレゼン、アクティビティの進行等のすべてを担当しました。

○「ふれあいフェスタ」の企画を、4つのグループに分かれて話し合いました。

○午前中には、センターオフィスのミーティングを実施し、今後の活動や午後のミーティングの進め方等について討議しました。



センターオフィス・ミーティング



アクティビティⅢ



「ふれあいフェスタ2013」の企画・立案



家庭教育の啓発チームを結成し、講座を受ける生徒たち（奈良市の県立大で）

高校生幼児にルール教育

県教委は4日、県内の高校生による家庭教育啓発チーム「きらら140（わん・ふおーてい）」を結成した。メンバーは幼稚園に出向いて啓発行事を手伝ったり、セミナーなどの運営に協力したりする。県教委人権・地域教育課は「高校生にとっても、将来、親になって子育てをする際に役立つ」と期待。奈良市の県立大で最初の活動となる開講式があり、生徒らは記念講演などに聞き入った。

（白石佳奈、有留貴博）

「きらら140」結成

チームの名前は「げんき」な「ら」いの「ら」な「ら」つこ みんなで育てよう！ という活動のキャッチフレーズから取り、メンバーは5、7月に応募した20校の男女140人。

県立大で開講式 園に出張劇で啓発

文部科学省が全国学力テスト時に実施したアンケートによると、県内の小中学生は、

ルールを守る意識が低く、朝食を毎日食べないなど生活習慣が身に着いていない傾向があるという。

このため、県教委では2009年度、小学校入学前から、あいさつや手伝いを励行する運動を始めた。今回のチーム結成もその一環となる。

この日の開講式には生徒約80人が参加。千原雅代・天理大教授（臨床心理学）が「子どもをこのころを理解する」と題して記念講演し、千原教授は「子育ては自らの振る舞

いを見直すことで、自らが成長する機会にもなる」と話した。

その後、生徒はコミュニケーションやマナーの講座も受講。県立郡山高2年の樋口航平さん（16）は「幼児でも一人の人間として接することの大切さを知った」といい、チーム代表の県立奈良高2年の鈴木ひかりさん（16）は「活動を通して、ルールを守る子供が少しでも増えるように努めた」と意気込みを語った。

今後、生徒たちは毎月1回、研修や、幼稚園などでアニメキャラクターにふんして約束を守る大切さを訴える劇を披露するなどの活動に取り組む。